

帰還者たちの記憶ミュージアム 絵画展 「戦争になるとどうなるの？」連携企画

証言映像上映会

帰還者たちの記憶ミュージアムが九段生涯学習館で開催する特別展示との連携企画として、自身の体験や思いを絵で表現した戦傷病者の証言映像や、戦傷病者の記録画集を元に制作した動画を上映します。

上映場所:しょうけい館2階 シアター

上映期間:2025年2月5日(水)~2月11日(火・祝)

上映時間:10:00~17:00

上映休止:2月9日(日) 13:00~14:00

想いを絵筆に込めて

毎時00分
より上映

上映時間:約16分

昭和19年3月、ビルマでのインパール作戦の折、トラックが急カーブで荷台の梱包物資もろとも谷底へ転落し、左腕を受傷。3~4日を要してカロー兵站病院に到着し、手術を受けるも完治はしなかった。その後、戦況の悪化から3ヶ月を要してタイのチェンマイへ向かう。当時を「死を覚悟して生きていたから辛いとは思わなかった」と振り返る。

がむしゃらに生きて、描く

毎時15分
より上映

上映時間:約18分

昭和16年に高射砲第一連隊に入隊後、陸軍船舶砲兵に転属。輸送船に取り付けられた高射砲の砲手として、数々の輸送任務につく。昭和19年11月、輸送船金華丸での輸送任務についている時に、敵機の空襲にあい右腕右足を負傷。その後、右腕は動かなくなり、左手で字を書く訓練をして家業の塗装業を継ぐ。子どもの頃から好きで描いていた船の絵が、模型の箱絵に使われたことがきっかけで、多くの軍艦などのプラモデルの箱絵を手がけた。後に画業に専念し、海洋船舶画家として多くの作品を手がけた。

絵やモノを見て学ぶ「戦争」体験

毎時34分
より上映

上映時間:約23分

宮崎県のある戦傷病者が自身の従軍中の体験をまとめた記録画集を元に、当館が制作した紙芝居風の動画。この記録画集を描いた戦傷病者は、徴兵検査を受けて上海で訓練を受けた後、中国最南端の島「海南島」での戦闘に参加して負傷。日本に戻って療養生活を送り、療養明け数か月後に終戦を迎えた。

◆上映時間以外でも、情報検索機にてご覧いただけます。◆団体プログラムにより変更となる場合もあります。